

関節リウマチ①

よく外来に来られた患者さんが、「先生、私はリウマチでしょうか、神経痛でしょうか？」と聞かれます。そのむかし病気がよく分かっていなかった時代に、医者がそんな説明をした名残なのでしょうか。また、以前まで「慢性関節リウマチ」という病名が使われていましたが、現在では「慢性」の2文字を消して、単に**関節リウマチ**と呼ばれるようになりました。

今、病院で医者が「リウマチ」と言う時は、狭くは**関節リウマチ (RA)**のことを指します。

それでは、**関節リウマチ**とはどんな病気でしょうか。

関節リウマチとは、関節に**炎症**がおり、関節が**腫れて**痛む病気です。進行すると**変形**と**機能障害**がおります。また、免疫異常を背景とした**全身症状 (関節外症状)**を伴う慢性、進行性、消耗性の病気です。

疫学：人口の **0.4 ~ 0.5 %**、日本全体では **60 ~ 70 万人**程度の患者さんがいる計算になります。

女性の方が男性より3倍程度多くみられます。

30歳から50歳で発病することが多いようです。

症状：関節症状は、発病初期の**炎症性滑膜炎**による可逆性のものと、晩期の**関節破壊**による不可逆性のものに分けられます。

初期の関節症状は、重く疼くような痛みで、朝に強く、天候の影響を受けやすいです。(天気の悪くなる前に、関節の痛みを訴えられる患者さんが多いようです。) 関節の腫れは、手指の関節では**紡錘状**になり、膝関節では**関節水腫**が生じることがあります(いわゆる、膝に水がたまった状態です。ちなみに、膝の水を抜くと癖になるというのは、迷信です。) 関節に熱をもったり、赤くなったりすることもあります。関節炎は寛解・再発をくり返しながら、徐々に**軟骨・骨の破壊**が進行していきます。最終的には、関節が破壊されて**関節の変形**を残し、**日常生活動作 (ADL)**が制限されるようになります。

(文責 奥田康介)

以後、関節リウマチ②に続きます。